

2025（令和 7）年度 自己点検・評価書

2026 年 3 月

佐賀大学
保健管理センター

2025(令和7)年度の保健管理センターの業務について総括し、活動報告および自己点検・評価を行う。

I 日常業務に関する状況と自己評価

保健管理センターは、佐賀大学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的として設置されている(佐賀大学保健管理センター規則第3条)。業務内容は下記の通りである。

- (1) 保健管理計画の企画・立案
- (2) 定期及び臨時の健康診断
- (3) 健康相談及び救急措置説明
- (4) 健康診断の事後措置、その他健康の保持増進に関する必要な指導
- (5) 学内の環境衛生及び感染症予防に関する指導・援助
- (6) 保健管理充実向上のための調査研究
- (7) その他保健管理に関し、必要な専門的業務

近年、発達障害等により合理的配慮を必要とする学生が年々増加しており、ウェルビーイング創造センター学修支援部門(旧:学生支援室)と緊密に連携し支援に当たっている。また、教職員の支援においても、過重労働対策(長時間労働者への産業医面接、医師の働き方改革対応)、ストレスチェックの結果で高ストレス者や要配慮者となった職員への産業医面談や病気休職からの復職支援等、様々な支援を実施する事例が増加傾向にある。

学生健康管理実施状況

本庄地区では、健康診断として、定期健康診断、スポーツ健康診断、RI・じん肺・特定化学物質健康診断、感染症対策、メンタルヘルス対策として、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満・やせ学生への対応、保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

鍋島地区では、健康診断として、定期健康診断、RI健康診断、感染症対策として、小児感染症対策(新入生)、B型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、メンタルヘルス対策として、カウンセリング、スクリーニング面談、その他として保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

＜本庄キャンパス＞

1. 定期健康診断

4 月の 11 日間の日程で、全学生を対象に従来通りの形で健康診断を実施した。2020 年度から予約システムを運用しており、混雑はなく円滑に実施できている。

健診対象者は 5,839 名、受診者は 3,524 名で受診率は 60.3%だった。学部毎の受診率は、教育学部 89.4%、芸術地域デザイン学部 59.3%、経済学部 57.4%、理工学部 51.2%、農学部 64.6%で、学部による受診率の差を認めた。学部新入生の受診率は昨年より上昇し、89.6%であった。その他の学年別の受診率は、2 年生 42.3%、3 年生 56.8%、4 年生 48.7%で、在学生の受診率の低さが目立った。大学院生の受診率は、69.1%だった。受診について HP、メール、SNS での周知のほか、教員を通じて各学部学生への連絡・再周知を行ったが、コロナ禍以前の 80%程度と比較し、かなり低い受診率のまま低迷している。

2. 健康診断結果(各検査所見)

既往歴では、アレルギー疾患、循環器疾患、外科・整形外科疾患、婦人科疾患、消化器疾患などが多く見られた。やせ(BMI 18 未満)は 299 名、肥満(BMI 30 以上)は 85 名に見られた。胸部 X 線は要精密となった者が 2 名であった。血圧は 81 名が有所見者(高血圧、低血圧)で、再検査、自宅血圧の測定などでも異常が見られる学生については専門医に紹介を行った。検尿異常(尿蛋白、潜血)は 178 名あり、再検査でも異常が続く者については、腎臓内科、泌尿器科等に紹介した。心電図検査は 18 名に実施し、うち 5 名で比較的軽度の所見を認め経過観察を行っている。

3. 留学生健康診断

留学生健診は、2020 年度から健診項目を日本人学生と統一し、4 月と 10 月(後期入学者)に実施している。受診率は前学期の健診対象学生 197 名中受診者 150 名(76.1%)、後学期の対象学生 97 名中受診者 71 名(73.2%)、総計 294 名中 221 名(75.2%)だった。留学生数は前年度よりやや減少したが、健康診断の受診率は、日本人学生と比較し良好だった。健康診断結果で有所見となった者は胸部 X 線 1 名、血圧 5 名、検尿 13 名で、それぞれ再検査や医療機関への紹介などの対応を行った。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

心理面のスクリーニングを行うために、定期健康診断時に全学生(留学生を除く)へ「学生生活質問票」(CMHQ:College Mental Health Questionnaire を改編)を配布し、調査を実施した。①総得点が30点以上(1～4点の4件法、12項目、総得点は12～48点)、②「ふと自分がこの世にいないかと考えてしまう」という希死念慮の設問項目で3点(「かなりの間」)以上だった学生、③メンタルクリニック等で治療中の学生、④相談希望の学生、⑤問診時、不安や不眠などの聴き取り内容ありの学生を要面接者とした。学修支援部門、キャンパスソーシャルワーカーなども含む学内の相談機関利用があると回答した学生については、体調や相談の状況などの確認を行った。結果は以下の通り。

新入生:要面接者は32名であった。うち32名(100%)に面接を実施した。面接の結果、28件の所見(重複あり)があり、内訳は、気分障害8件、発達障害(疑いを含む)6件、自殺の危険4件、神経症3件、人格障害1件、睡眠障害1件、その他5件だった。重複が多く見られたものと思われる。

2年生:要面接者は13名であった。13名(100%)に面接を実施した。11件が有所見(重複あり)で、内訳は気分障害3件、神経症3件、発達障害(疑いを含む)2件、自殺の危険1件、その他2件だった。

3年生:要面接者は12名であった。うち12名(100%)に面接を実施した。8件が有所見(重複あり)で、内訳は、発達障害(疑いを含む)3件、気分障害2件、神経症2件、薬物依存状態1件だった。

4年生:要面接者は19名であった。19名(100%)に面接を実施した。14件が有所見(重複あり)で、内訳は、発達障害(疑いを含む)4件、気分障害3件、神経症3件、摂食障害群2件、自殺の危険1件、その他1件だった。

大学院生:要面接者は7名であった。うち7名(100%)に面接を実施した。3件が有所見で、気分障害、発達障害(疑いを含む)、その他がそれぞれ1件、計3件認められた。

全体として、83名に面接を行い(面接率100%)、とくに問題がないと判断された学生は13名(15.7%)。精神診断(状態を含む)が可能とされた学生は70名(84.3%)で、気分障害(うつ状態、躁状態など)、発達障害(疑い含む)、神経症(不安状態など)が比較的多く見られた。すでに学内(保健管理センター、学修支援部門、キャンパスソーシャルワーカー)、学外の医療機関のフォローにつながっている学生も24名と多く、新たにカウンセリングにつながる学生も22名あった。

健診当日に面談予約を行うことで、面接実施率は 100%と良好だった。健診の受診率は低迷が続いており、スクリーニングの効率についても検証の余地があるが、要面接者数は、昨年度に比べ減少した(112 人→83 人)。相談希望ありの学生は、例年並みの 15 名だった。スクリーニング面接の結果、特に問題なしは 13 名(15.7%)であり、昨年度の 36 名(32.1%)と比較すると、大幅に減少している。相対的に支援ニーズの高い学生の割合が増加した可能性があり、今後の動向を注視する必要がある。医療機関に紹介した学生は昨年度 0 だったが、今年度は 3 名あった。発達障害(疑いを含む)は、昨年度 9 名から 16 名に増加していた。希死念慮関連項目でスクリーニングされる学生は 28 名と多いが、実際に自殺の危険があると判断された学生は少数であり、面接時には自己解決しているケースも多くみられた。例年の傾向として、1 年生は入学時の不安、3 年生は研究室配属や実習によるストレス、4 年生は就職活動や卒業研究への不安が影響しているように思われた。

4-2 カウンセリング状況

本庄地区では、常勤の中島カウンセラー、恵カウンセラーと非常勤の学生カウンセラー3 名(学修支援部門と兼任)および医師、保健師が保健管理センターでカウンセリングを行っている。カウンセリングを受けた学生数は 264 名、延べ面談数は 652 回で、いずれも増加の傾向が見られる。外部医療機関(精神科等)へ紹介したケースが 22 件あった。相談内容の内訳は、精神衛生が 162 名と多く、次いで対人 36 名、学生生活 16 名、身体健康 14 名、学業 11 名、家族 7 名、の順に多かった。

4-3 障害学生

本年度の保健管理センターが把握している障害学生数は 277 名(うち本庄 244 名)、何らかの修学支援を行っている学生は 151 名(本庄 129 名)、障害手帳等取得者は 3 名であった。前年度と比較して障害学生数は、30 名増(本庄 21 名増)だった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害、視覚・聴覚・言語の障害、肢体不自由などの障害を持つ学生が在籍しており、ウェルビーイング創造センター学修支援部門と連携して支援ニーズの把握や修学支援、身体・健康面のサポート等を行っている。

5. 感染症対策

(1) 各種感染症罹患者への対応

佐賀大学ホームページの学生センター「感染症による出校停止及びその他やむをえない事由による欠席について」のページに「感染症罹患報告フォーム」へのリンクがあり、入力されたデータをもとに各種感染症罹患の学生を把握・確認を行っている。本人から保健管理センターへの電話連絡での報告にも対応している。フォームへの入力者に対しては、感染症の種類に応じて、保健管理センターから電話等で本人へ体調確認を行い、必要に応じて関係者（教務課、指導教員等）への情報共有を行っている。

(2) ワクチン接種に関する相談対応

留学等で海外渡航予定の学生や HPV ワクチン他各種ワクチン接種について保健管理センターへ相談希望があった学生については、ワクチンについての確認や説明を行い、適宜対応可能な医療機関の紹介を行っている。

6. 健康診断証明書発行状況

自動発行機による健康診断証明書発行状況は、1,029 通であった。保健管理センターにおける発行件数（自動発行で対応できないもの）は、36 通であった。発行数が多いのは、発行開始直後の 5 月～7 月だった。発行目的の多くは、就職用と結果通知用だった。

7. 保健管理センター利用状況（本庄地区）

保健管理センターの利用件数は 5,915 件（学生 3,461 件うち留学生 215 件・職員 2,454 件）であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘルスについての相談、健診の事後措置（血圧、検尿の再検査等）、保健指導など利用の内容は多岐に渡っている。医師 2 名、保健師 3 名（うち非常勤 1 名）の体制で対応している。

<鍋島キャンパス>

1. 定期健康診断

医学部健診対象者は 867 名、学部学生の受診者は 856 名で受診率は 98.7%だった。医学部大学院生の受診率は、54.7%だった。医学部学生は、各学年で実習があるため、受診率は高い。大学院生は社会人大学院生も多く、大学の学生健康診断を受診する学生が少ない状況は続いている。

令和 7 年度からは、内科診察対象を新入生、実習生、卒業年度予定学生、経過観察が必要な学生、ならびに問診により診察が必要と判断された学生に限定して実施した。その結果、診察を受けた学生は 573 名であった。

また、令和 8 年度の医学科カリキュラム改定により、医学科 4 年生の臨床実習開始時期が従来の 3 月末から 1 月開始へと約 3 ヶ月前倒しとなる。この変更に対応するため、当初予定していた令和 8 年 3 月の健康診断日程を見直し、全学年の健康診断を 4 月に実施する方針へ変更することとした。

2. 健康診断結果(各検査所見)

既往歴では、喘息などの呼吸器疾患、アレルギー疾患、循環器疾患、消化器疾患などが多く見られた。やせ(BMI 18 未満)は 35 名、肥満(BMI 30 以上)は 1 名に見られた。胸部 X 線検査は、42 名に側弯症を含む所見が認められるが、精密検査対象となる学生はいなかった。血圧は 27 名が有所見者(高血圧、低血圧)となり、再検査・自宅血圧の測定を行った結果、専門医を受診し、内服治療を受けた学生は 2 名であった。検尿異常(尿蛋白)は 18 名、再検査でも異常が続く 3 名が腎臓内科を受診したが、異常はなく健康診断での経過観察となった。心電図検査は 26 名に所見を認め、心雑音を含む 2 名が内科受診した。

3. メンタルヘルス対策

3-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

新入生:入学時オリエンテーションで「学生生活質問票」(CMHQ:College Mental Health Questionnaire)配布し、心理面のスクリーニング調査を実施した。要面接対象は 22 名で、面談に来た新入生は 19 名(面接率 86.3%)であった。

留年生:留年生オリエンテーション時に、全員に封書で面談案内を行った。留年 29 名中、面談に来た学生は 23 名(面談率 79.3%)だった。すぐにクリニック受診対象となる学生はいなかった。

看護学科 3 年:実習前メンタル対策として、全員を対象にスクリーニング面接を実施した。対象者 60 名中 55 名がスクリーニング面接を受けた(面接率 91.6%)。

医学科 2 年生:10 月 1 日～9 日に Web にて CMHQ 調査を実施し、94 名の名が回答。要面接対象となった学生が 23 名で、うち 15 名に面接を行った(面接率 65.2%)。

医学科 4 年生：11 月 6 日～12 日に Web にて CMHQ 調査を実施し、107 名の 65 名が回答。
要面接対象となった学生 12 名全員に面接を行った（面接率 100.0%）。

スクリーニング面談の結果は、気分障害（うつ状態、そう状態など）が 4 名、睡眠障害 2 名、摂食障害が 0 名、発達障害の可能性が 2 名などであった。睡眠障害を訴える学生は、保健管理センター医師の外来受診し、診察・治療を受けるなどし、睡眠状況の改善に努めた。発達障害の可能性のある学生については専門病院を紹介したが、確定診断はついていない。ウェルビーイング創造センターでの修学支援は、診断結果に基づくサポートになるため、チューターでの継続フォローとなった。

医学科 2 年・4 年の Web 調査については、回答率が低いため回答率を上げる方法を検討していく。

3-2 カウンセリング状況

鍋島地区では、医師 1 名、常勤の臨床心理士 1 名がカウンセリングを行っている。看護職を含めたカウンセリングを受けた学生数は 47 名、延べ面談数は 148 回であった。専門の精神科医師の診察が必要と判断した場合は、佐賀大学附属病院精神神経科の学校医 2 名の協力を得て対応を行っている。佐賀大学医学部附属病院を含む外部医療機関（精神科等）へ新規に紹介したケースが 1 名、前年度からの継続が 1 名だった。相談内容の内訳は、精神衛生が 30 名と多く、次いで学生生活 6 名だった。

令和 7 年度は、対応に苦慮する学生の事例が数件あった。保健管理センタースタッフ、学生課、学校医、医学部長と相談しながら、本人及び保護者の対応を行った。

また、臨床実習中開始後、体調不良・メンタル不調を訴える学生もいるため、学生から相談があった場合やチューターからの相談があった場合は、可能な限り臨床実習コーディネーターと協力し早期対応を行うよう努めた。

3-3 障害学生（留学生を除く）

令和 7 度の保健管理センター分室が把握している医学部障害学生数は 33 名。何らかの修学支援を行っている学生は 22 名、障害手帳等取得者は 2 名であった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害の特性をもつ学生が在籍しており、担当チューター教員や学生課と連携して支援ニーズの把握を行っている。

3-4 その他

医学部学生は、臨床実習など、ストレスが多い学生生活を送っている。特に医学科は2年生の解剖実習、4年生の臨床実習前 OSCE・CBT、6年時の卒業試験などがストレス要因となっている。そういった時期に、睡眠障害やメンタル不調に陥る学生も存在する。

精神科クリニックは個人クリニックの場合も、最近では受診の予約が取りにくい傾向がある。睡眠障害の段階で保健管理センター医師に相談し、早期に睡眠障害を改善することで、体調改善に至った学生もあった。また、医学部は女子学生が多く、低血圧、月経困難症等で体調不良を訴える学生7名が、漢方外来受診し、体調改善につながるケースもあった。

4. 感染症対策

感染症対策として、学生生活全般の感染症対策(授業における感染対策、病院実習についての症状確認・実習参加の可否確認、部活・サークル活動に関する注意喚起)を学生課と協力して行った。

1)小児感染症(麻疹・風疹・水痘・ムンプス)

新入生の入学案内時に、小児感染症のワクチン接種を各2回接種行うよう案内している。入学から5月までに接種完了し、6月からの実習の感染防止対策を行っている。提出していない学生に対しては、実習オリエンテーションを利用し案内を行っている。

2)B型肝炎ワクチン接種

令和6年度にワクチン接種を行った学生の、153名が陽転した。抗体が陽転しなかった学生6名については、個人負担で令和7年に追加接種を推奨し、3名が追加接種を受け、全員が陽転した。

令和7年度は、新入生158名を対象に6月から接種を開始し、2月までに3回接種を行った。156名が陽転した。

3)インフルエンザワクチン接種

インフルエンザワクチン接種は10月に大学経費で医学科5年と看護学科3年の実習生の感染対策として、155名に接種を行った。令和7年度からは卒業学年の医学科6年・看護学科4年・大学院生については、各自クリニック受診しワクチン接種を行うよう案内した。

4)新型コロナ感染症など

新型コロナ感染症については、令和 5 年 5 月 8 日から 5 類感染症になったが、附属病院内でのマスク着用や面会制限などの感染対策は継続している。附属病院を利用するすべての学生には、附属病院の感染対策を実践するようオリエンテーション時に周知を行った。

5. 健康診断証明書発行状況

医学部では、健康診断証明書発行だけでなく、ワクチン接種記録証明書発行もあり、自動発行機で対応できない結果があるため、健康診断結果は全員手渡しで行っている。保健管理センターでの健康診断書発行件数は、264 通であった。発行数が多いのは 10 月で、国家試験説明会時に全員にワクチン接種記録証明を発行しているため 160 件と発行数が多かった。次いで、医師・看護師・保健師の国家資格の免許申請のため、3 月が 76 件と多かった。

6. 保健管理センター利用状況(鍋島地区)

保健管理センターの利用件数は 5960 件(学生 2649 件、職員 3311 件)であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘルスについての相談、ハラスメント相談、健診の事後措置(血圧、検尿の再検査等)、保健指導など利用の内容は多岐に渡っている。

教職員の健康管理実施状況

<本庄地区>

1. 労働安全衛生活動状況

本庄地区では、安全衛生管理活動として、職場環境の整備(作業環境管理、職場の巡視、5S 活動、快適職場づくり)、マニュアル等の整備(安全衛生管理マニュアルの作成、SDS の整備)、健康保持増進対策(健康診断、有所見者に対する事後措置、メンタルヘルス対策、受動喫煙防止対策)、安全衛生教育(安全衛生教育、能力向上教育、衛生管理者等資格者の確保)等の活動を環境安全衛生管理室と連携して行っている。

保健管理センターでは、健康診断(雇入時健康診断、定期健康診断、特定業務従事者健康診断、その他の検診)、メンタルヘルス(カウンセリング、スクリーニング、ストレスチェック、過重労働対策、復職支援、カウンセラー連絡会)、感染症対策、禁煙サポート、職場巡視、安全衛生委員会などの活動を他部署とも連携しながら実施している。

2. 健康診断

雇入時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診(人間ドック等)を合わせると、935 名が健康診断を受けていた。受診率は 100%だった。定期健康診断の要精密者は 206 名(35.2%)であったが、その内、精密検査を受診した者は 112 名(54.4%)であった。精密受診率は前年 6 割程度であったが今年度は若干低下しており、精密検査が必要な方については医療機関を受診していただくよう受診確認および受診勧奨を行っていく必要がある。雇入時健康診断、大腸がん検診の精密検査受診結果提出率は、それぞれ、75.0%、66.7%だった。胃検診の受診者は 60 名で要精密者は 1 名(受診済み)あった。

今年度より、希望者を対象に前立腺がん、乳がん、子宮頸がんの検診を開始した。受診者数はそれぞれ 71 名、55 名、75 名だった。前立腺がん検診で 4 名、乳がん検診で 5 名が要精密となり全員が精密検査を受診した。子宮頸がん検診は要精密となった者はいなかった。鍋島地区では先行して実施されていたものであるが、これらのがん検診を学内で実施することは、がん予防についての意識啓発につながることを期待される。

3. 感染症対策

職員の感染症罹患については、新型コロナウイルス感染症に関する特例的な取り扱いが終了した後も、感染症法に基づき、体調不良者や感染症罹患からの問い合わせや相談への対応は継続して実施している。

インフルエンザ予防接種は、本庄キャンパス職員の希望者へも保健管理センターで 2020 年度よりインフルエンザ予防接種を実施している。2025 度も、接種を希望する 565 名の職員に、10/30～11/17 の期間の 5 日間の日程で保健管理センターにおいてワクチン接種を実施した。

4. メンタルヘルス対策

(1)健康調査(メンタルスクリーニング)状況

本庄地区では、全教職員を対象に 8 月にストレスチェックを実施した。対象者 868 名中 743 名(回答率:85.6%)からの回答を得た。高ストレス者は 50 名(2024 年度 8.0%→2025 年度 6.7%)だった。8 名に産業医・産業カウンセラーによる面接を実施し、6 名は継続カウンセリングとし体調について経過観察を行った。

また、新規採用者・異動者等を対象にメンタル面のスクリーニングのための面談を行っている。新しい環境への適応に問題がないかを確認するため「疲労蓄積度チェックリスト」などを用いて心身の健康の確認を行っている。本年度は面接対象者 133 名のうち 131 名(98.5%)の面接を実施した。面接の結果、5 名は継続カウンセリングとし体調について経過観察を行った。

(2) カウンセリング実施状況

カウンセリング体制は、産業医 2 名、産業カウンセラー(非常勤)1 名、保健師 3 名(うち常勤 2 名、非常勤 1 名)である。相談の実数は 60 名、延べ数は 197 件であった。8 名を医療機関に紹介した。相談内容の内訳は、精神衛生(精神的不調に関わるもの)が多く、次いで人間関係、仕事、家族であった。

5. 復職支援実施状況

病気(メンタルヘルスの不調者を含む)やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している(休職しようとする者を含む)教職員に、段階(0~4 段階)ごとに産業医が中心となり復職支援を実施している。それぞれの段階とは、第 0 段階(発症時の支援)、第 1 段階(療養開始・療養中の支援)、第 2 段階(職場復帰準備期の支援 例:仮出勤)、第 3 段階(職場復帰時の支援)、第 4 段階(職場復帰後の支援 例:慣らし出勤)である。

本年度の復職支援対象者は、メンタル 7 名で、延べ面接回数は 48 回だった。仮出勤中は体調の変動が起きやすいことから、原則的に週 1 回程度の頻度で産業医面談による体調確認を行うようにし、不調時には早めの対応(以降の仮出勤プログラムの修正等)が行えるようにした。復職判定会議は 2 件実施し、メンタル疾患で休職していた職員 2 名が復職した。復職後のサポートのための面談も慣らし出勤期間中に適宜実施し、復職後の体調管理、職場への順応がスムーズに行われているかをフォローアップしている。

6. 労働災害報告

本年度の労災発生は計 11 件だった。発生状況、再発防止への取り組みについては毎月の本庄地区安全衛生委員会で環境安全衛生管理室により取りまとめられ報告されている。

7. 長時間労働に対する産業医面談

月の勤務時間が標準時間から 80 時間を超えた者を対象に産業医面談を実施している。健康状態の確認を行い、必要に応じて管理監督者への勧告を行うこととしている。毎月人事課より長時

間労働者についての報告を受け、産業医が確認を行っている。本年度は 14 名の面談を実施した。高ストレス面談時には、時間外労働の状況についても確認を行い、体調面で懸念がある者についてはガイドラインに基づき報告書による人事課および所属部署へのフィードバックを行っている。

＜鍋島地区＞

1. 労働安全衛生活動状況

鍋島地区では、鍋島地区安全衛生活動計画に基づき、毎月1回の職場巡視及び安全衛生委員会を開催している。作業環境管理(作業環境測定等)・作業管理(薬品管理システム CRIS 利用講習会・リスクアセスメント講習会・衛生管理担当者説明会の開催等)・健康管理(健康診断、感染症対策、メンタルヘルス対策、復職支援、喫煙対策、過重労働対策等)については、鍋島事業場産業医 1 名、附属病院事業場産業医 1 名、総務課、専任衛生管理者、衛生管理者等と連携し活動を行っている。

2. 健康診断

定期健康診断については、附属病院 1,482 名、鍋島事業場 320 名が受診し、受診率は 100%であった。精密検査については 4 割程度の精密受診率であり、うち 2 割弱の者が治療を要している。

雇入時健康診断については、佐賀中部保健福祉事務所の立入検査の際に、採用後概ね 1 か月以内に実施するよう指導があったため、異動が多い附属病院職員においては対応が困難ではあるものの委託契約病院での受診や本庄キャンパスでの健診実施時に案内し、附属病院 221 名、鍋島事業場 48 名受診し、採用後 1 か月以内に実施した。

特定業務従事者健康診断については、附属病院 1,067 名、鍋島事業場 137 名の受診があった。電離放射線健康診断 868 名、有機溶剤健康診断 136 名、特定化学物質健康診断 28 名の受診があった。

各種がん検診については、前立腺がん検診 57 名、胃がん検診 64 名、大腸がん検診 168 名、乳がん検診 161 名、子宮がん検診 168 名に実施した。精密検査の結果、治療を要す職員が 2 名あった。9 年目となる歯科検診は 74 名の受検があった。

3. 感染症対策

職員の感染症対策については、専任衛生管理者・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。小児感染症 4 項目（ムンプス・麻疹・風疹・水痘）については、医療従事者の有資格職員については雇入時まで 4 種のワクチンを各々 2 回接種し、接種証明書や母子手帳写し等を提出していただくようお願いしている。その書類等を確認及び入力し、「免疫の記録カード」の発行を行っている。資格を有しない非常勤職員（看護助手やクラーク、医師事務作業補助者等）に対しては、のべ 30 名にワクチン接種を行った。B 型肝炎対策として、健康診断時に 162 名の抗体検査を実施し、のべ 93 名にワクチン接種を行った。ワクチン接種後の免疫獲得率は 100%となっている。

インフルエンザについては、全職員及び関係業者を対象に 1741 名にワクチン接種を行った。新型コロナウイルス感染症については、インフルエンザと同等の対応を行っており、ワクチン接種については自己接種勧奨とした。

4. メンタルヘルス対策

全職員を対象に、定期健康診断時に職業性ストレスチェックを行った。鍋島地区では職員のメンタルヘルス対策として平成 23 年度から継続実施している。1,759 名（回答率 98.2%）が回答した。高ストレス者が 145 名（8.2%）で、うち 3 名が産業医の面接指導を受けた。今年度から高ストレス者と判定された者のうち「心身のストレス反応」が 80 以上の者、及び「心身のストレス反応」が 70 以上かつ「仕事のストレス反応」及び「周囲のサポート」が 80 以上の者 102 名を産業カウンセラーの面接対象とし、うち 69 名が面接実施となった。なお結果については、安全衛生委員会及びメンタルヘルス対策部会、衛生管理担当者説明会等で産業医より報告を行った。

新規採用者・異動者及び昇任者を対象とし、産業カウンセラーによるスクリーニング面接を 257 名に実施した。看護部からの依頼により新人看護師には年 2 回のスクリーニング面接を実施している。個別カウンセリングは、「仕事」や「精神衛生」に関する相談が多く、1 名は外部の医療機関へ紹介となった。年に 2 回、メンタルヘルス対策部会を開催しておりカウンセラーと産業医や事務部門、看護部、過半数代表者などの関係者との情報交換及び共有を行い、連携強化を図っている。

5. 復職支援

復職支援として、休職となった職員 14 名にのべ 60 回の産業医面談を行った。復職支援プログラムによる仮出勤から復職判定会議を経ての復職、及び復職後においても支援を行った。メンタ

ル3名、フィジカル2名が復職プログラムにより仮出勤を行い、判定会議において復職可となり、復職した。

6. 過重労働対策

月の勤務時間が標準時間から80時間を超えた者、もしくは45時間以上が3か月続いた者で申し出のあった職員(医師以外)を対象に、4名の産業医面談を実施した。「医師の働き方改革」については、今年度から面接指導は外注化されており、産業医の面談を希望するのべ8名の医師については産業医が面接指導を行った。

Ⅱ 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員3名はそれぞれ大学の講義を担当し、学外では好生館看護学院、県内の高校などでの講義・講演も依頼を受け行っている。また、学生や教職員向けの健康教育やミニレクチャーなども適宜実施している。以下に本年度の実績を示す。

1. 講義

木道(学内):

健康科学 A・後期 全15回 全学部全学年対象 103名

坂本(学内):

- ・循環器ユニット2 画像診断 CT. 2025.04.10. 医学部医学科3年 100名.
- ・循環器ユニット2 症候学浮腫. 2025.04.17. 医学部医学科3年 100名.
- ・循環器ユニット2 PBL. 2025.05.13 医学部医学科3年 8名.
- ・病棟実習:循環器内科心電図・心エコー. 2025.03.31-10.17. 医学部医学科5年 97名.
(実習13グループを2班に分け 各1時間心エコー指導実施 計26時間)

木道(学外):

呼吸・循環器系病態論 循環器内科

佐賀県医療センター好生館看護学院 看護科1年 40名

1)心不全 2025年10月6日

2)虚血性心疾患 2025年10月27日

3)不整脈 2025 年 12 月 8 日

坂本(学外):

佐賀女子高等学校衛生看護専攻科「疾患と看護 循環器 1」2025.05.12.「疾患と看護 循環器2」
2025.05.19. 佐賀女子高等学校.

2. 大学院生等指導

坂本: 医学・看護学概論 健康科学の Topics 2025.6.2 大学院生

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

保健管理センターは学生・教職員の健康管理が主な業務であるが、保健管理業務に関する研究報告、学会発表等は着実にを行い、毎年一定の成果を出している。九州地区大学保健管理研究協議会、全国大学保健管理研究協議会などの大学の保健管理に関する学会や各自の専門領域の学会に積極的に参加し、研鑽に努めている。科研費への応募も継続して行っており、採択もされている。以下に研究報告、学会発表等の内容を提示する。

研究報告

〔学会発表〕

1. 大学医学部職員における生活習慣病に関する現状について 坂本佳子、古川早苗、武富弥栄子、安田郁、小川康子、嘉松美穂、緒方よしみ、荒木薫、木道圭子 第 63 回全国大学保健管理研究集会 2025 年 9 月 10 日 けんしん郡山文化センター(福島県郡山市)
2. 専門技師ゼロ問題を地域で考えよう！ 坂本佳子 日本心エコー図学会第 36 回学術集会 (2025.04.18-04.20, 名古屋市)
3. 永久ペースメーカー植え込み患者における術後左房ストレインの臨床的意. 吉岡吾郎, 山口尊則, 平井元子, 梅木俊晴, 鍋嶋洋裕, 坂本佳子, 野出孝一:日本心エコー図学会第 36 回学術集会(2025.04.18-04.20, 名古屋市)
4. 経食道心エコー図検査を契機に左房性三心房心を指摘し得た一例. 平井 元子, 坂井 ひかり, 鍋嶋 洋裕, 森永 崇, 坂本 佳子, 梅木 俊晴, 野出 孝一:日本心エコー図学会第 36 回学術集会((2025.04.18-04.20, 名古屋市)

5. TAVI 患者における術前左室機能指標と予後: システマティックレビューとメタ解析. 鍋嶋 洋裕, 坂本 佳子, 吉岡 吾郎, 柚木 純二, 竹内正明, 野出 孝一 日本心エコー図学会第 36 回学術集会(2025.04.18-04.20, 名古屋市)
6. 重症の機能性僧帽弁閉鎖不全症 (FMR) を伴う心不全に対し, 経皮的僧帽弁接合不全修復術 (TEER) により外来心不全管理が可能となった 1 例. 長尾 瑞樹, 平井 元子, 鍋嶋 洋裕, 吉岡 吾郎, 坂本 佳子, 柚木 純二, 蒲原 啓司, 野出 孝一 第 350 回内科学会九州地方会(2025.08.23, 大分市)
7. 体外式模型人工心肺(ECMO)留置下に経カテーテル的大動脈置換術(TAVI)を行った左心室機能の一例. 松崎 凌佑, 吉岡 吾郎, 柚木 純二, 馬場 康平, 鍋嶋 洋裕, 林 奈宣, 本郷 玄, 坂本 佳子, 蒲原 啓司, 野出 孝一 第 39 回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会(2025.09.05-09.06, 鹿児島市)
8. 当院における TAVR 術後の三尖弁閉鎖不全症(TR) と予後の関連について. 平井 元子, 鍋嶋 洋裕, 吉岡 吾郎, 林 奈宣, 本郷 玄, 坂本 佳子, 柚木 純二, 蒲原 啓司, 野出 孝一 第 39 回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会(2025.09.05-09.06, 鹿児島市)
9. 大動脈弁狭窄症における Doppler 法と Disk summation 法による一回拍出量の比較と重症度判定への影響. 平井 元子, 鍋嶋 洋裕, 坂本 佳子, 森永 崇, 南里 享奈, 前田 まゆみ, 小屋松 純司, 梅木 俊晴, 秋吉 妙美, 野出 孝一 日本超音波医学会第 35 回九州地方会学術集会(2025.09.05-09.06, 佐賀市)
10. 潜在性脳梗塞の鑑別に経胸壁・経食道心エコー図検査による Valsalva 負荷 Microbubble test が有用であった 1 例. 峰松 優季, 福山 野乃華, 平井 元子, 坂本 佳子, 鍋嶋 洋裕, 坂井 ひかり, 梅木 俊晴, 秋吉 妙美, 小屋松 純司, 野出 孝一 日本超音波医学会第 35 回九州地方会学術集会(2025.09.05-09.06, 佐賀市)
11. 三尖弁に発生した乳頭状弾性線維腫の一例. 南里 享奈, 坂本 佳子, 小屋松 純司, 梅木 俊晴, 於保 恵, 鍋嶋 洋裕, 陣内 宏紀, 大枝 敏, 蒲原 啓司, 副島 英伸 日本超音波医学会第 35 回九州地方会学術集会(2025.09.05-09.06, 佐賀市)
12. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の経過観察中に右房で確認された炎症性肉芽腫の一例. 石隈 麻邪, 梅木 俊晴, 坂本 佳子, 陣内 宏紀, 柚木 純二, 於保 恵, 大枝 敏, 蒲原 啓司, 副島 英伸 日本超音波医学会第 35 回九州地方会学術集会(2025.09.05-09.06, 佐賀市)

13. HFpEF を合併した慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)の一例. 南里 龍彦, 坂井 ひかり, 福田 ゆい, 平井 元子, 鍋嶋 洋裕, 吉岡 吾郎, 本郷 玄, 金子 哲也, 森永 崇, 坂本 佳子, 矢島 あゆむ, 野出 孝一 第 139 回日本循環器学会九州地方会(2025.12.06)
14. 心不全管理で ADL が改善し経皮的僧帽弁接合不全修復術から小切開僧帽弁形成術へ治療方針を変更し得た一例. 渡邊 絢子, 坂井 ひかり, 福田 ゆい, 平井 元子, 鍋嶋 洋裕, 吉岡 吾郎, 本郷 玄, 金子 哲也, 森永 崇, 坂本 佳子, 矢島 あゆむ, 陣内 宏紀, 野出 孝一 第 139 回日本循環器学会九州地方会(2025.12.06,福岡市)
15. 経皮的左心耳閉鎖術における心房中隔穿刺 その時エコーで何が見えたか?. 坂本佳子 ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2025(2025.12.05-12.06, 横浜市)
16. Prognostic value of LVEF in patients undergoing TAVI: a meta-analysis of 75,085 patients. EACVI 2025(2025.12.11-12.13, オーストリア)

[論文]

1. 大学医学部職員における生活習慣病に関する現状について 坂本佳子、古川早苗、武富弥栄子、安田郁、小川康子、嘉松美穂、緒方よしみ、荒木薫、木道圭子 CAMPUS HEALTH 63(1) 2026.3COVID-19 流行期における大学生の感染予防対策の励行状況 荒木薫、木道圭子、原めぐみ CAMPUS HEALTH 2025.3 62(1) 107-108 第 62 回全国大学保健管理研究集会(神戸大学)報告書
2. Kaneko T, Tanaka A, Takamori A, Hongo H, Sakamoto Y, Yajima A, Asaka M, Ajimi T, Kamishita K, Inoue Y, Nagatomo D, Fujimatsu D, Kotooka N, Node K: Home-based telemonitoring care and executive function in patients with heart failure. Hypertens Res. 2025; 48(5): 1199–1209. doi: 10.1038/s41440-025-02199-8. Epub 2025 Apr 25.
3. Nabeshima Y, Kitano T, Sakamoto Y, Takeuchi M, Node K: Prognostic Utility of Left Ventricular Ejection Fraction in Patients Undergoing Transcatheter Aortic Valve Implantation - A Systematic Review and Meta-Analysis. Circ Rep. 2025; 7(10): 980–987. doi: 10.1253/circrep.CR-25-0126. eCollection 2025 Oct 10.
4. Nagi Hayashi , Junji Yunoki, Kouhei Baba, Yosuke Nabeshima, Goro Yoshioka, Hiroshi Hongo, Takashi Morinaga, Yoshiko Sakamoto, and Keiji Kamohara : Transcatheter Aortic Valve Implantation-Related Aortic Dissection Attributed to the Edwards Delivery System Pusher: A Case Report. J Transcatheter Valve Ther 2026; 8: 65–70. doi: 10.33290/jvt.cr.25-0025.

5. 秋吉 妙美, 坂本 佳子, 坂井ひかり, 矢島あゆむ, 石井敬太郎, 梅木 俊晴, 野出 孝一:
広範囲に心臓浸潤を呈した心臓原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に化学療法が著効
した 1 例. 超音波検査技術 vol. 51 No.2:145-154, 2026.

[学会参加]

(木道)

- ・ 2025 年 4 月 9 日～5 月 9 日 第 89 回日本循環器学会学術集会(Web オンデマンド)
- ・ 2025 年 4 月 18 日～5 月 31 日 第 122 回日本内科学会総会・講演会(Web オンデマンド)
- ・ 2025 年 6 月 28 日 第 138 回日本循環器学会九州地方会 福岡国際会議場
- ・ 2025 年 9 月 10 日～11 日 第 63 回全国大学保健管理研究集会 けんしん郡山文化センター(福島県郡山市)
- ・ 2025 年 9 月 12 日 令和 7 年度一般社団法人国立大学保健管理施設協議会総会 郡山商工会議所 当番大学:山形大学
- ・ 2026 年 3 月 18 日～19 日 第 27 回フィジカルヘルスフォーラム 立命館びわこくさつキャンパス(滋賀県)
- ・ 2026 年 3 月 20 日～22 日 第 90 回日本循環器学会学術集会 福岡国際会議場、サンパレス、マリンメッセ

(荒木)

- ・ 2025 年 8 月 20 日 令和7年度 第 55 回九州地区大学保健管理研究協議会 久留米大学
- ・ 2025 年 9 月 25 日 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 久留米大学
 - ◇ Q-wea 理事・副学長ネットワーク会議/OPENeD(全国ダイバーシティネットワーク)九州・沖縄ブロック会議
 - ◇ Q-wea シンポジウム

坂本

- ・ 第 55 回九州地区大学保健管理研究集会 2025.8.20 久留米市(久留米大学)

- ・ 第 63 回全国大学保健管理研究集会 2025.09.10-09.11 福島県郡山市【発表】
- ・ 日本心エコー図学会第 36 回学術集会 2025.04.18-04.20 名古屋市【発表】
- ・ 第 10 回日本血管不全学会学術集会総会 2025.04.27 佐賀市
- ・ 第 61 回日本循環器病予防学会学術集会 2025.05.24-05.25 佐賀市
- ・ 日本超音波医学会第 98 回学術集会 2025.05.30-06.01 京都市
- ・ 日本超音波医学会第 35 回九州地方会学術集会 2025.10.05 佐賀市【佐賀大学主幹、座長】
- ・ 第 73 回日本心臓病学会学術集会 2025.09.19-09.21 高知市
- ・ ストラクチャークラブ・ジャパンライブデモンストレーション 2025 2025.12.05-12.06 横浜市【発表】
- ・ European Association of Cardiovascular Imaging congress 2025(EACVI) 2025.12.11-12.13 オーストリア
- ・ 第 90 回日本循環器学会学術集会 2026.03.20-03.22 福岡市【佐賀大学主幹、座長】

[論文査読]

木道: CAMPUS HEALTH 62(2) 2025 年 12 月 発行 全国大学保健管理協会

坂本: 日本心エコー図学会査読委員. 2025.01.31

科学研究費補助金など

1. 荒木薫: 令和 7 年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」「継続・育成型 STEAM ガールズコンソーシアム」(256.6 万円)
2. 荒木薫: 佐賀県内高校生の将来展望実態調査 (205.4 万円)

IV 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、大学、自治体、地域の方々などから講演等を依頼されることも比較的多くあり、時間の許す範囲で健康に関する講演を行うなど社会連携・貢献に努めている。県の審議会、委員会、関連学会等の委員となり活動に協力している。留学生の健康面の支援、留学する

日本人学生の留学前後の健康面の支援なども佐賀大学の国際交流活動の一助になっていると考える。以下に 2025 年度に行った講演等について示す。

〔講 演〕

1. 木道圭子:「メンタルヘルスについて」令和 7 年度佐賀大学新採用職員(事務職員・技術職員)研修 2025 年 4 月 17 日 佐賀大学図書館4階会議室
2. 木道圭子:「健康管理について」 令和 7 年度佐賀大学係長ステップアップ研修 2025 年 7 月 24 日 理工学部 6 号館 DC 棟 2 階多目的セミナー室
3. 木道圭子:「課外活動を安全に行うために」令和 7 年度課外活動団体セミナー 2025 年 10 月 15 日 教養教育大講義室
4. 木道圭子:飲酒運転防止のための講演会「飲酒と健康 ―アルコールについての新常識―」(Web)2025 年 12 月 25 日
5. 嘉松美穂、木道圭子:「課外活動を安全に行うために」令和 7 年度第2回課外活動団体セミナー 2026 年 2 月 17 日 教養教育大講義室
6. 荒木薫:「佐賀大学鹿島での挑戦～市民と共に創る地域の未来～ 未来を創る高校生の意義とは ―佐賀県高校生将来展望調査より―」2025 年 9 月 21 日 鹿島市民文化ホール(SAKURAS)
7. 荒木薫:「ダイバーシティ教育の意義～学校現場における特性と課題～」2025 年 6 月 17 日 武雄市医師会健診センター
8. 坂本佳子:新採用者研修「職場の安全衛生 メンタルヘルス」.2025.04.07. 佐賀大学医学部.
9. 坂本佳子:サークルリーダーシップセミナー「熱中症について」. 2025.07.14. 佐賀大学医学部.
10. 坂本佳子:衛生管理担当者説明会「熱中症について」. 2025.07.29. 佐賀大学医学部.
11. 坂本佳子:第 3 回佐賀超音波画像診断研究会. 講演 1 古島早苗先生「僧帽弁逆流の心エコー評価～長崎大学病院の流儀、お見せします～」.講演 2 柚木純二先生「僧帽弁膜症治療の実際～佐賀大学での低侵襲治療の取り組み～」2025.11.29.佐賀大学医学部.【主催、座長】
12. 坂本佳子:佐賀県医師会産業医研修会.「健康管理」. 2025.05.10, 佐賀市.

〔自治体・学外の団体の委員会等〕

木道：全国大学保健管理協会評議員、全国大学保健管理協会九州地方部会幹事

荒木：佐賀県教育委員会委員、佐賀県男女共同参画推進審議会委員

坂本：日本超音波医学九州地方会運営委員、日本心エコー図学会代議員、佐賀超音波画像診断研究会世話人。

学会での活動（坂本）

佐賀県初の心エコー図専門医の資格取得（2025 年）

日本超音波医学九州地方会運営委員会、日本心エコー図学会代議員を務め、九州・全国での心臓超音波検査の普及と発展に尽力している。

・指導医：超音波専門医 1 名合格（唐津赤十字病院循環器内科医師）

・指導医：超音波検査士 3 名合格（唐津赤十字病院検査技師 2 名、佐賀記念病院検査技師 1 名）

V 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

保健管理センターの組織運営については、保健管理センター運営委員会で審議、報告を行い運営しており、本年度も通常の業務について、遅滞や問題、事故等もなく円滑に業務は遂行できたものとする。運営委員会では、健診を中心とする保健管理業務の企画立案、健康診断の結果の報告、健診データの解析結果の提示、健康調査の結果報告などを行っている。

保健管理センターの教員は、佐賀大学の学内の各種委員会にも積極的に参加し、保健管理センター教員（医師）として専門的見地から意見を述べ委員会運営に貢献している。また産業医として佐賀大学の労働安全衛生業務にも従事している。また、保健管理センターでは、災害や事故、感染症の発生などに備え危機管理マニュアルを策定している。

各教員が担当している学内の委員会委員等を下記に示す。

委員等（木道）：

保健管理センター運営委員会（委員長）、本庄地区安全衛生委員会（委員、産業医）、安全衛生管理委員会委員、本庄地区産業医、入学試験委員会委員、学生委員会委員、教育室会議委員、

施設マネジメント委員会委員、病原体等安全管理委員会委員、放射性同位元素等安全管理委員会、本庄地区放射線障害予防委員会委員、新型インフルエンザ対策委員会委員、化学物質管理委員会委員、ウェルビーイング創造センター運営委員会委員、ウェルビーイング創造センター学修支援部門委員、ダイバーシティ推進室員

委員等(荒木):

保健管理センター運営委員会委員、本庄地区安全衛生委員会(委員、産業医)、本庄地区産業医、ダイバーシティ推進室運営委員会(室長)、広報戦略会議、ハラスメント相談員

委員等(坂本):

保健管理センター運営委員会(委員)、鍋島事業場産業医、鍋島事業場メンタルヘルス対策部(部会長)、医学部教育委員会(オブザーバー)、鍋島地区放射線障害予防委員会委員、ハラスメント相談員

[研修・講習会等への参加]

(木道)

- ・ 2025 年 5 月 28 日 産業医研修会「事務系職場における職場巡視について」アバンセ
- ・ 2025 年 6 月 6 日 科研費制度セミナー「科学研究費助成事業(科研費)について」文部科学省研究振興局学術研究推進課企画室 大鷲正和室長(Web)
- ・ 2025 年 6 月 12 日 2025 年度第 1 回医療安全・院内感染対策に関する研修会(e-learning)
- ・ 2025 年 6 月 19 日 令和 8 年度科研費獲得に向けた講演会「科研費採択への王道と近道 ～チェックリストの読破と実行～」名古屋市立大学理事長 郡健二郎(Web)
- ・ 2025 年 7 月 7 日 佐賀県医師会産業医研修会「労働衛生管理体制ースタッフの役割ー」「職場におけるメンタルヘルス」
- ・ 2025 年 9 月 9 日 2025 年度第 2 回医療安全・院内感染対策に関する研修会(e-learning)
- ・ 2025 年 9 月 30 日 産業医研修会「職場の健康をデザインする:行動科学×環境整備」「産業医が行う作業管理」佐賀メディカルセンター城内記念ホール
- ・ 2025 年 11 月 6 日 令和 7 年度 e-ラーニングによる教職員向け情報セキュリティ講
- ・ 2025 年 12 月 4 日 「大学教員のための生成 AI 実践講座-Copilot 活用の 2025 年最新版-」(Web)

- ・ 2025 年 12 月 12 日 令和7年度「公正な研究活動の推進に関する講演会」「意図せぬ研究不正を防ぐために」大阪大学全学教育推進機構教授中村征樹氏 理工学部6号館多目的セミナー室
- ・ 2025 年 12 月 18 日 令和7年度 佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会(Web) 佐賀大学医学部附属病院認知症疾患医療センター主催
- ・ 2026 年 2 月 9 日 内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウム「“情報”の力で備える 感染症危機～見えないリスクを捉え、わかりやすく伝えるために～」(YouTube ライブ)

(荒木)

- ・ 2025 年 10 月 24 日 D&I 社会実現のための学び方働き方に関する実証実験:中間シンポジウム お茶の水大学
- ・ 2026 年 1 月 15 日 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 第3回 FD 講演会
- ・ 2026 年 1 月 28 日 「始まる前に知っておきたい！仕事と介護の両立」佐賀大学ダイバーシティ推進室主催セミナー
- ・ 2026 年 2 月 1 日 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム令和7年度全体報告会 科学技術振興機構東京本部 JST 開催
- ・ 2026 年 2 月 27 日 産業医研修「化学物質の管理基準の作られ方」アバンセ
- ・ 2026 年 3 月 26 日 産業医研修「保健指導をデザインする—効果的な保健指導を考える—」アバンセ

(坂本)

- ・ 2025 年 5 月 20 日 小児科カンファレンス「吃音について」
- ・ 2025 年 5 月 22 日 メンタルヘルスケア講習(医学部新入生対象)
- ・ 2025 年 7 月 16 日 令和7年度 医学看護学教育研修会 第1回
- ・ 2025 年 9 月 17 日 令和7年度 医学看護学教育研修会 第2回
- ・ 2025 年 6 月 2 日 2025 年度 医療安全・院内感染症対策に関する研修会 第1回
- ・ 2025 年 9 月 1 日 2025 年度 医療安全・院内感染症対策に関する研修会 第2回
- ・ 2025 年 12 月 1 日 2025 年度 医療安全・院内感染症対策に関する研修会 第3回
- ・ 2025 年 5 月 2 日 2025 年度 放射線業務従事者教育訓練
- ・ 2025 年 7 月 16 日 AYA 世代のがん対策
- ・ 2025 年 9 月 9 日 2025 年度 研究費不正使用防止に関するコンプライアンス教育 e ラーニング

- ・ 2025 年 9 月 9 日 令和 7 年度 e-ラーニングによる教職員向け情報セキュリティ講習「教職員のための情報倫理とセキュリティ 2025」
- ・ 2025 年 10 月 19 日 インスリン講習会
- ・ 2025 年 10 月 ハラスメント防止研修 2025 年度
- ・ 2025 年 12 月 12 日 令和 7 年度 佐賀大学公正な研究活動の推進に関する講習会
- ・ 2025 年 12 月 19 日 保険診療に関する講習会
- ・ 2026 年 1 月 20 日 人生100年時代に挑む予防医学
- ・ 2026 年 1 月 27 日 生成 AI を活用した申請書作成に関する講習会
- ・ 2026 年 2 月 2 日 2025 年度 医療倫理・虐待に関する講習会 第 1 回
- ・ 2026 年 2 月 5 日 医学教育の現状と課題
- ・ 2026 年 2 月 17 日 SD 研修 マニュアル作成の基本研修の実施について
- ・ 2026 年 3 月 3 日 令和 7 年度 RST 講習会 第 1 回
- ・ 2026 年 3 月 18 日 SOS！佐賀の前立腺がん(2026.02.01–2026.03.31 web) 2026.03.18

VI 改善すべき点

本年度の健診対象者は 6,412 名、受診者は 4,159 名で、受診率は 64.9%であった。学部別では教育学部 89.4%、医学部 98.7%と高い一方、理工学部 51.2%、経済学部 57.4%、芸術地域デザイン学部 59.3%、農学部 64.6%と学部間の差が顕著である。学年別では新入生が 89.6%と昨年より上昇したものの、2 年生 42.3%、3 年生 56.8%、4 年生 48.7%と在学生の低さが目立った（大学院生は 69.1%）。

コロナ禍以降の受診率低下に対し、本年度は HP や SNS での周知に加え、教員を通じた各学部学生への再周知を行った。受診率は若干上昇したもののコロナ禍前の約 80%を大きく下回る低迷が続いており、本来のスクリーニング機能が十分に果たせていない懸念がある。なお、実習のない学部での受診率低下は他大学も含め全国的な傾向でもある。

健康診断は、疾病やメンタルヘルスの把握、修学支援ニーズの抽出につながる重要な機会であり、受診率向上への取り組みは不可欠である。今後は、無料の健康診断証明書やメンタル不調の早期発見・早期対応といった受診メリット、および予約システムによる利便性の周知を徹底する。あわせて、生協ポイント等のインセンティブ付与、オープンバッジ制度の導入、予約外受診枠の一部設定等について具体的な検討を進める。さらに、2025 年度末に先行導入した「健康診断

結果の Web 閲覧システム」の本格稼働と効果的な活用を推進する。これら進めることで、学生の健康への関心を高める、さらなる受診率の向上をはかる。